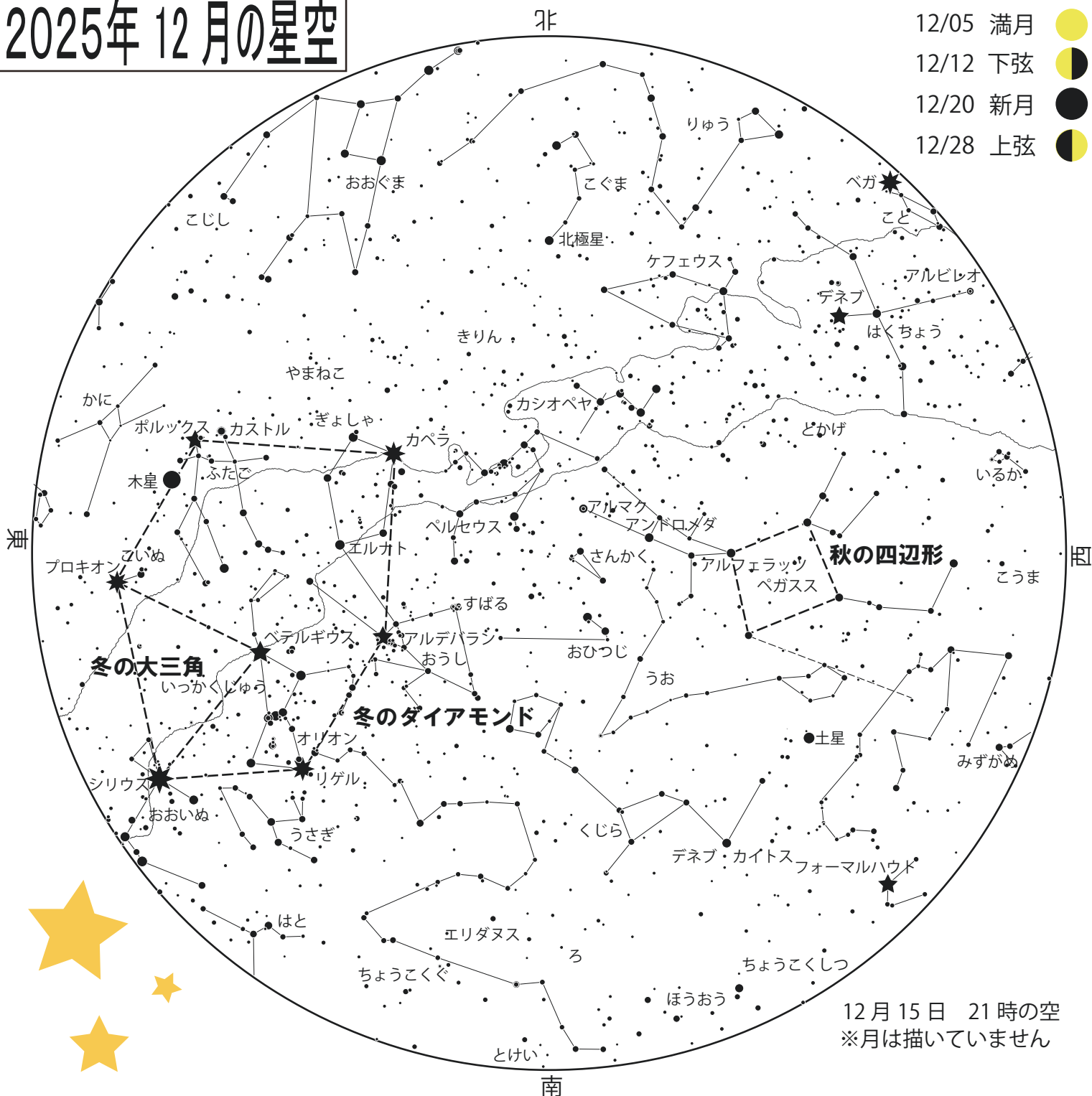


姫路で見る 2025年12月の星空

図の中心が頭の真上(天頂)、まわりの円が地平線です。
この星図は見ている方向の方位を下にしてください。

- 12/05 満月 
- 12/12 下弦 
- 12/20 新月 
- 12/28 上弦 



12月22日の「冬至」は、昼が一番短く夜が一番長い日です。日の入りが最も早いのは11月下旬～12月上旬で午後4時49分頃、日の出が最も遅いのは来年の1月上旬で午前7時9分頃です(ともに姫路での時刻)。

夜のはじめの頃、夜空は**みずがめ座**、**うお座**など、目立たない秋の星座が中心です。両星座を移動中の**土星**と、**みなみのうお座**の**フォーマルハウト**だけが存在感を示しています。夜遅くになると、東の空は明るい星の多い冬の星座でいっぱいになります。**おうし座**の**アルデバラン**、**オリオン座**の**ベテルギウス**と**リゲル**、**おおいて座**の**シリウス**、**こいて座**の**プロキオン**、**ふたご座**の**ポルクス**、**ぎょしゃ座**の**カペラ**など、冬の一等星たちが作る「**冬のダイヤモンド**」や「**冬の三角**」も、全体が見えてきます。**ふたご座**では**木星**が明るく輝いて、東の空はとても賑やかです。**水星**は8日に「**西方最大離角**」を迎えるため、姫路では日の出30分前の高度が10度を超え、見つけやすくなります。明るさはマイナス0.5等ほどです。

「**ふたご座流星群**」が最も見頃となるのは12月14日の宵から15日の明け方です。月明かりの影響が少なく、好条件で多くの流星を楽しむことができますでしょう。